2022年度

授　業　概　要

日本体育大学医療専門学校

口腔健康学科

授　業　概　要

歯科衛生士専門課程の教育内容、授業科目及び単位数等

分野別	教育内容	単位数	授業科目	授業形態	単位数			単位数計	時間数	頁
					1年	2年	3年			
基礎分野	科学的思考の基礎	4	生命倫理学	講義	1			1	15	1
			自然科学	講義	2			2	30	2
			からだとこころの科学	講義	1			1	20	3
	人間と生活	6	英語Ⅰ	講義	2			2	30	4
			英語Ⅱ(医用英語)	講義	2			2	30	5
			コミュニケーション学	講義	2			2	30	6
小計		10			10			10	155	
専門基礎分野	人体の構造と機能	8	人体構造学(含、発生学)	講義	4			4	60	7
			人体機能学	講義	4			4	60	8
	歯・口腔の構造と機能	6	口腔解剖学(歯型彫刻論)	講義	2			2	30	9
			口腔機能学	講義	2			2	30	10
			歯科栄養学	講義	2			2	30	11
	疾病の成り立ち及び回復過程の促	6	病理学(含、口腔病理学)	講義	2			2	30	12
			微生物学(含、免疫学)	講義	2			2	30	13
			薬理学	講義	2			2	30	14
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	10	口腔衛生学Ⅰ	講義	2			2	30	15
			口腔衛生学Ⅱ(含、歯科衛生統計)	講義		2		2	30	16
			衛生行政・社会福祉行政	講義			2	2	30	17
			衛生学・公衆衛生学	講義		2		2	30	18
			介護技術	演習			2	2	30	19
小計		30			22	4	4	30	450	
専門分野	歯科衛生士概論	2	歯科衛生士概論	講義	2			2	30	20
	臨床歯科医学	18	歯科臨床概論(含、医学概論)	講義	2			2	30	21
			成人歯科学Ⅰ(歯周)	講義		2		2	30	22
			成人歯科学Ⅱ(修復・歯内)	講義		2		2	30	23
			成人歯科学Ⅲ(補綴)	講義		2		2	30	24
			高齢者歯科学(含、先端歯科学)	講義		2		2	30	25
			障害者歯科学	講義		2		2	30	26
			小児歯科学	講義		2		2	30	27
			歯科矯正学	講義		2		2	30	28
			口腔外科学(含、麻酔学)	講義		2		2	30	29
	歯科予防処置論	8	歯科予防処置論	講義	2			2	30	30
			歯科予防処置Ⅰ(歯周病予防1)	実習	1			1	45	31
			歯科予防処置Ⅱ(歯周病予防2)	実習		1		1	45	32
			歯科予防処置Ⅲ(歯周病予防3)	実習		1		1	45	33
			歯科予防処置Ⅳ(う蝕予防処置)	実習		1		1	45	34
			口腔保健管理法	講義		2		2	30	35
	歯科保健指導論	7	歯科保健指導論Ⅰ	講義	2			2	30	36
			歯科保健指導論Ⅱ	実習			2	2	90	37
			歯科保健指導論Ⅲ	実習			1	1	45	38
			栄養指導	講義			2	2	30	39
	歯科診療補助論	10	歯科診療補助論Ⅰ	講義	2			2	30	40
			歯科診療補助論Ⅱ	実習	2			2	90	41
			歯科診療補助論Ⅲ	講義	2			2	30	42
			歯科診療補助論Ⅳ	実習		2		2	90	43
			歯科放射線・臨床検査学	講義		2		2	30	44
	臨地実習(臨床実習を含む)	20	臨床実習Ⅰ-1(歯科診療所)	実習		8		8	360	45
			臨床実習Ⅰ-2(歯科診療所)	実習			8	8	360	46
			臨地実習Ⅰ(教育施設)	実習			2	2	90	47
			臨地実習Ⅱ-1(福祉施設)	実習		1		1	45	48
			臨地実習Ⅱ-2(福祉施設)	実習			1	1	45	49
小計		65			15	34	16	65	1,905	
選択必修分野	応用歯科医学論	10	専門基礎総合演習	演習		2		2	30	50
			総合歯科医学演習	演習			2	2	30	51
			医療保険	講義			2	2	30	52
			社会福祉論	講義			2	2	30	53
			スポーツ歯学	講義			2	2	30	54
小計		10	小計			2	8	10	150	
合計		115	合計		47	40	28	115	2,660	

1	区分	基礎分野	形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		生命倫理学	単位数		1
担当教員		湯山　徳行	履修年次		口腔　1年次

【授業の概要・到達目標】
現代の医学は発達はめざましく、病気や障害に悩む多くの人たちを助けています。しかし、一方では、延命治療技術の進歩により安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療、遺伝子医療など最先端医療技術は新たな倫理的問題を生じている。「生命倫理学」では、将来の医療人を目指している学生に、こうした倫理的課題について理解し、広い視野から問題を自ら考察する。

【授業計画】

1	4/6	生命倫理、医療倫理とは			
2	4/20	医の倫理に関する規範および国際規範 バイオエシックスに関わる問題			
3	5/11	1. 生命の始まりに関わる問題 2. 生命の終わりに関わる問題			
4	5/25	3.その他の問題			
5	6/1 (1コマ)	中間試験			
6	6/15	インフォームド・コンセント			
7	6/29	研究と医療倫理			
8	7/13 (1コマ)	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動			
9	7/20	前期期末試験			
10	7/27 (1コマ)	振り返り			

学習上の注意	人に限らず、様々な領域で生命倫理は必要欠くべからざる学問となってきている。この生命倫理にとって何が問題なのか新聞や雑誌、インターネットなどに十分注意を払い、各人が問題意識を持って挙げられるようにしておくこと。		
評価方法	期末試験、中間試験、レポート、授業態度の総合評価		
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理」	参考書	生命倫理学入門　今井道夫著　産業図書

2	区分	基礎分野	形式	講義	前期　金曜日
授業科目名		自然科学	単位数		2
担当教員		吉田　裕輝	履修年次		口腔　1年次

【授業の概要・到達目標】
科学的な思考・知識を身につけることは、歯科衛生士にとって歯科医療にたずさわる上で、必要不可欠な要素である。特に医療に関して言えば、人体の構造や機能を理解する上での基礎となる。本講義では自然科学の内でも特に生命科学について学んでいく。生命活動について基本的な事項から、最近明らかとなってきた知見も併せて紹介していく。

【授業計画】

1	4/8	授業概要、人体を構成する要素 生命の単位			
2	4/15	細胞のはたらき　細胞小器官			
3	4/29	細胞のはたらき　膜の構造,細胞骨格			
4	5/6	遺伝子発現からタンパク合成過程 (セントラルドグマ)			
5	5/13	物質の輸送(受動輸送と能動輸送)			
6	5/20	自己複製・細胞周期			
7	5/27	組織と器官　上皮組織			
8	6/3	中間試験　/ 組織と器官　支持組織			
9	6/10	組織と器官　筋組織、神経組織			
10	6/17	糖質の種類とその化学構造			
11	6/24	脂質の種類とその化学構造			
12	7/1	アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造			
13	7/8	核酸(DNA,RNA)と核酸関連物質の化学構造			
14	7/15	エネルギー代謝とATP合成			
15	7/22	前期期末試験			
16	7/29	前期総合まとめ(期末試験解説含む)			

学習上の注意	復習に重点をおいて学習すること。私語は慎むこと。 携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する。		
評価方法	期末試験を主としてにより評価する。これに中間試験及び授業態度等を加味し、総合的に評価する。		
教科書		参考書	最新歯科衛生士教本　生物学　医歯薬出版 最新歯科衛生士教本　化学　医歯薬出版 高校　生物基礎、生物の教科書や参考書

3	区分	基礎分野	形式	講義	前期　水曜日
授業科目名		からだとこころの科学	単位数		1
担当教員		又吉　啓太	履修年次		口腔　1年次

【授業の概要・到達目標】
身体の構造や機能、及び健康，障害、福祉、介護などを正しく理解した医療従事者の育成を目的とする。

【授業計画】

1	4/6	運動器系1（骨）			
2	4/20	運動器系2（骨）			
3	5/11	運動器系3（関節・筋）			
4	5/25	消化器系1（上部消化管）			
5	6/1	中間試験/解説			
6	6/8	消化器系2（下部消化管）			
7	6/15	脈管系・呼吸器系・泌尿器系			
8	6/29	健常者・身体障害者を取り巻く環境・法律など			
9	7/13	健常者・身体障害者を取り巻く環境・法律など			
10	7/20	前期期末試験			
11	7/27	前期試験解説			

学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書	人体の構造と機能1、配布プリント	参考書	

4	区分	基礎分野	形式	講義	前期・金曜日
授業科目名		英語Ⅰ	単位数		2
担当教員		坂井　成美	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
①日常の状況に応じた基本的な会話表現ができる。
②日常生活における英会話、時事英語、ポップスなどのリスニングにより、理解力を養うことができる。
③英文を日本語に翻訳する基本的なテクニックを身につけることができる。
④簡単な歯科医用英語を理解し応用することができる。

【授業計画】

1	4/8	ガイダンス			
2	4/15	自己紹介文の作成・発表			
3	4/29	日常会話と聞き取り・飲食店			
4	5/6	日常会話と聞き取り・電話			
5	5/13	日常会話と聞き取り・旅行①			
6	5/20	日常会話と聞き取り・旅行②			
7	5/27	日常会話と聞き取り・買い物			
8	6/3	中間試験/解説			
9	6/10	日常会話と翻訳・日本の社会事情			
10	6/17	日常会話と翻訳・日本の文化			
11	6/24	身体の部位の名称			
12	7/1	病院の診療科の名称・歯科の器具□			
13	7/8	症状を表す英単語・歯科の問診票			
14	7/15	これまでの学習内容の要旨を確認□			
15	7/22	前期期末試験			
16	7/29	試験の解説・振り返り□			

学習上の注意	英会話のペアワークによる演習中心の授業形式なので、積極的授業参加を強く期待しています。		
評価方法	試験90%、提出物10%、受講態度(減点)による総合的評価。		
教科書	学習資料を毎回配布	参考書	

5	区分	基礎分野	形式	講義	後期・金曜日
授業科目名		英語Ⅱ(医用英語)	単位数		2
担当教員		坂井　成美	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
①歯科衛生士として頻繁に使うことが想定される表現を英語で表現することができる。
②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすべきかを考えることができる。
③英語の楽しさと必要性を実感できる。
④英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。

【授業計画】

			1	9/30	First Visit/After Treatment
			2	10/7	General History/X-ray Examination
			3	10/14	Hypersensitity of Teeth/Restoration
			4	10/28	Pulp Capping/Root Canal Tratment
			5	11/4	Review
			6	11/11	Gingivitis/Dyeing the Plaque Red
			7	11/18	Periodontitis/Scaling/Pocket Irrigation
			8	11/25	Prosthodontic Treatment
			9	12/2	Taking Impressions/Fixing the Crown
			10	12/9	Fixing the Bridge
			11	12/16	Preventive Dentistry/Haliosis
			12	1/13	Fluoride Application
			13	1/20	Instructions for Toothbrushing
			14	1/27	Whitening
			15	2/3	後期期末試験
			16	2/10	試験の解説・振り返り□

学習上の注意	この授業では歯科衛生士が頻繁に使うと予想される会話例を多く取り入れた教科書を使い、英語で積極的に少しでも多く演習を重ねることで、歯科衛生士として必要な英語の知識を学ぶ。教科書の内容全てを網羅しようとはせず、特に重要で実用的な部分にのみ着目し、練習する。		
評価方法	試験90%、提出物10%、受講態度(減点)による総合的評価。		
教科書	「チェアーサイドの歯科英会話　外国人患者が診療所を訪れたら」 医歯薬出版株式会社	参考書	

6	区分	基礎分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		コミュニケーション学	単位数		2
担当教員		佐伯　晴子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
信頼される社会人、歯科衛生士としてのコミュニケーション能力を修得する。
1. 失礼のない態度と言葉遣いで人と接することができる。
2. 文献や資料を読み理解し、求められる形式に応じて適切に書く。
3. 積極的に傾聴する。
4. 相手に合わせてわかりやすく話す。
医学部・歯学部での指導経験を活かし、患者の立場にたって信頼できる態度と望ましいコミュニケーションのあり方を指導する。

【授業計画】

			1	9/29	医療コミュニケーション概説 医療人に求められるコミュニケーション能力
			2	10/6	伝達トレーニング、 ジェスチャーコミュニケーション
			3	10/13	教科書　第1課Ⅳ文の構造・Ⅴ助詞
			4	10/20	うなずきと相槌、繰り返し、三つの姿勢
			5	10/27	教科書　第3課　　敬語・敬意表現を使おう
			6	11/10	喜ばれる言葉と嫌われる言葉、 敬語テスト
			7	11/17	助言トレーニング、 質問の技法(コーチング)
			8	11/24	要約の技法、共感の技法
			9	12/1	教科書　第2課Ⅱ説明をする
			10	12/8	教科書　第4課Ⅰ文章の要約
			11	12/15	医療面接(初回面接)ロールプレイ 冬休み課題の指定
			12	1/12	振り返りによるスキルアップ、プロセス・レコード
			13	1/19	教科書　第4課Ⅲ手紙文　Ⅳ案内文
			14	1/26	教科書　第5課Ⅰグラフ・表の分析
			15	2/2	後期期末試験　(敬語・医療面接・手紙文・グラフを中心に出題)
			16	2/9	試験解説 エゴグラム・集団討議

学習上の注意	授業は演習を中心に行うので、教科書については、解答例を参考にして、各自で予習復習をすること。 授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食および、他学生の学習の迷惑になる行為は禁止する。		
評価方法	出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題と小テスト30%、後期試験50%		
教科書	「大学生のための日本語表現実践ノート　改訂版」風間書房(1,000円+税)	参考書	「人間関係とコミュニケーション」諏訪茂樹編著 「あなたの患者になりたい」佐伯晴子著

7	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年・木曜日
授業科目名		人体構造学(含、発生学)	単位数		4
担当教員		中山　光子	履修年次		口腔　1年次

【授業の概要・到達目標】
人体構造学では歯科医療の基本となるヒトの『構造』について学習する。同時に組織学・発生学的なヒトの特徴についても学習を行い、各器官の構造的な違いを深く理解し説明できることを目標とする。

【授業計画】

1	4/7	解剖学の基礎知識（解剖用語・細胞など）	17	9/29	循環器の構造と機能　3.(胎児循環・リンパ系)
2	4/14	人体の発生	18	10/6	呼吸器の構造と機能　1.(鼻腔から気管支)
3	4/21	骨の構造と機能　1.(頭蓋骨・体幹骨)	19	10/13	呼吸器の構造と機能　2.(肺)
4	4/28	骨の構造と機能　2.(四肢骨)	20	10/20	泌尿器の構造と機能
5	5/12	筋の構造と機能　1.(頭頚部の運動)	21	10/27	男性・女性生殖器の構造と機能
6	5/19	筋の構造と機能　2.(体幹の運動)	22	11/10	内分泌器官の構造と機能
7	5/26	筋の構造と機能　3.(上肢の運動)	23	11/17	神経系の構造と発生
8	6/2	中間試験/解説	24	11/24	中枢神経構造と機能　1.（脳）
9	6/9	筋の構造と機能　2.(下肢の運動)	25	12/1	中枢神経構造と機能　2.（脊髄）
10	6/16	消化管の構造と機能　1.(口腔～胃まで)	26	12/8	末梢神経の構造と機能　1.（脳神経）
11	6/23	消化管の構造と機能　2.(小腸～直腸まで)	27	12/15	末梢神経の構造と機能　3.（脊髄神経）
12	6/30	消化腺の構造と機能　1.(唾液腺・肝臓・膵臓)	28	1/12	末梢神経の構造と機能　4.（自律神経）
13	7/7	循環器の構造と機能　1.(血管・心臓)	29	1/19	感覚器の構造と機能　1.(皮膚・視覚器)
14	7/14	循環器の構造と機能　2.(動脈・静脈)	30	1/26	感覚器の構造と機能　2.(聴覚・平衡感覚器)
15	7/21	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	7/28	前期期末試験解説	32	2/9	後期試験解説

学習上の注意	学習する内容が多いので、講義後は復習をおこなうこと。各自ファイル等を用意し配布資料を紛失しないようにすること。		
評価方法	中間試験(15%)、前期試験(35%) 、後期試験(50%)で評価を行う。		
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)	参考書	特にないが、必要に応じて紹介する。

8	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　月曜日
授業科目名		人体機能学	単位数		4
担当教員		湯山　徳行	履修年次		口腔　1年次

【授業の概要・到達目標】

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系とシステムを構築して、人体の恒常性を保っている。ここでは、医療従事者として必要な構造と機能を有機的に学び、臨床医学の基礎である全身の正常機能を理解し、歯科医療と全身の関係を学習し、歯科医療従事者として必要な基礎的知識を理解する。

【授業計画】

1	4/11	細胞の生理的機能・恒常性	17	9/26	神経の基本機能(1)
2	4/18	血液(1)	18	10/3	神経の基本機能(2)
3	4/25	血液(2)	19	10/17	神経系の機能(1)
4	5/9	血液(3)	20	10/24	神経系の機能(2)
5	5/16	循環器(1)	21	11/7	筋と運動(1)
6	5/23	循環器(2)	22	11/14	筋と運動(2)
7	5/30	循環器(3)	23	11/21	感覚器(1)
8	6/6	中間試験/呼吸器(1)	24	11/28	感覚器(2)
9	6/13	呼吸器(2)	25	12/5	感覚器(3)
10	6/20	呼吸器(3)	26	12/12	内分泌(1)
11	6/27	呼吸器(4)	27	12/19	内分泌(2)
12	7/4	消化器(1)	28	1/16	排泄(1)
13	7/11	消化器(2)	29	1/23	排泄(2)
14	7/18	消化器(3)	30	1/30	体温
15	7/25	前期期末試験	31	2/6	後期期末試験
16	8/1	振り返り	32	2/13	振り返り

学習上の注意	人体の機能を学習するに当たっては、生物学の知識が必要になり、高校で生物を履修していない学生は生物学を学習しておくこと。生体の機能は、からだの構造を理解していることが不可欠なので、解剖学・組織学等の知識を一緒に学習すること。 各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。		
評価方法	期末試験、中間試験、小テスト、授業態度による総合評価		
教科書	歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	参考書	

9	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		口腔解剖学(歯型彫刻論)	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】歯科医療に従事するために必要な医学の基礎として、顎・顔面領域の組織の名称および構造を学ぶ。
学習の視点から、1．口腔の構造と機能、2．歯の種類と機能、3．口腔組織の構造と機能の3つに分類して、
それぞれについて理解する。
【到達目標】口腔領域の解剖学的名称および機能を、医療人として患者に説明ができる。各歯の形態を3次元的に把握し、実際に歯冠形態を彫刻できる。

【授業計画】

1	4/7	頭頸部組織の名称			
2	4/14	顔面と口腔の発生			
3	4/21	頭蓋骨			
4	4/28	口腔を構成する骨			
5	5/12	頭頸部の筋と作用			
6	5/19	頭頸部の脈管系			
7	5/26	神経概論(脳神経)			
8	6/2	中間試験/解説			
9	6/9	神経(三叉神経・顔面神経)			
10	6/16	神経(その他)			
11	6/23	歯と歯周組織の発生			
12	6/30	歯の形態(永久歯)・スケッチ			
13	7/7	歯の形態(乳歯)・スケッチ			
14	7/14	歯冠彫刻			
15	7/21	前期期末試験			
16	7/28	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	口腔解剖学は歯科医学の基本であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。		
評価方法	期末試験(70%)・中間試験(30%)		
教科書	歯科衛生士シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)	参考書	

10	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		口腔機能学	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
【概要】口腔は、生命に関与する多様な機能を持っている重要な組織である事を認識し、その働きを学ぶ。正常な組織や機能とはどのような状態か、それらの機能を正常に保つには何が必要かを考えながらこの学問に取り組む。口腔内の感覚、咀嚼、嚥下へのつながり、唾液の役割を知ることにより、総合的に口腔機能を学ぶ。
【到達目標】口腔機能の重要性を理解し、正常な機能のメカニズムを説明できる。

【授業計画】

1	4/12	歯と口腔の感覚①			
2	4/19	歯と口腔の感覚②			
3	4/26	味覚と嗅覚			
4	5/10	咬合と咀嚼			
5	5/17	咬合と咀嚼・顎反射			
6	5/24	吸啜			
7	5/31	嚥下			
8	6/7	中間試験/解説			
9	6/14	嚥下			
10	6/21	嘔吐			
11	6/28	発声			
12	7/5	唾液腺の構造			
13	7/12	唾液の分泌機構			
14	7/19	唾液の性状と機能			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	口腔機能学は、口腔領域の正常な機能を学ぶ基本的な学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。		
評価方法	期末試験（70%）・中間試験（30%）		
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）	参考書	

11	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		歯科栄養学	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
【概要】食物として摂取した栄養素をどのように消化・吸収し、どのように活用しているかを学ぶ。身体を構成している物質の分子レベルまでを理解し、体内の動的なエネルギー代謝や物質代謝、遺伝子の関与、細胞内の情報伝達の働きを学ぶ。また、口腔内に生ずるう蝕や歯周病の原因とメカニズムを理解する。
【到達目標】栄養の基礎知識と栄養素の働きを理解し、各ライフステージでの健康を維持するために必要な栄養を考えた食生活の指導が行える能力を習得する。

【授業計画】

			1	9/27	生体の構成要素
			2	10/4	生体の構成成分と栄養素
			3	10/11	生体における化学反応
			4	10/18	糖質と脂質の代謝
			5	11/1	恒常性の維持
			6	11/8	歯と歯周組織の生化学
			7	11/15	硬組織の生化学
			8	11/22	確認テスト/唾液とプラークの生化学
			9	11/29	栄養の基礎知識
			10	12/6	食事摂取基準
			11	12/13	栄養素の働き
			12	1/10	微量栄養素の働き
			13	1/17	食生活と健康
			14	1/24	ライフステージと栄養
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	後期試験の解説とまとめ

学習上の注意	歯科栄養学は、健康を維持するために必要な食生活を学ぶ学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。		
評価方法	期末試験（80%）・確認テスト（20%）		
教科書	最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝（医歯薬出版）	参考書	

12	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		病理学(含、口腔病理学)	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】口腔顎顔面領域に生じる疾患の原因、発症の機序、進展、転機を明らかにし、疾患に対する予防や治療の基礎となる知見を統合する。疾患に罹患すると、その組織はどのような変化を呈するかを整理し、各疾患の特徴を捉えながら学習を進める。病理学を学びながら、解剖学、生理学、微生物学、薬理学などの基礎医学の知識を実際の医療へ結びつけられるように理解する。

【到達目標】病理学を通して口腔内に起こる様々な病気を理解し、必要な治療や予防に対する基本的知識を習得する。

【授業計画】

			1	9/27	病理学序論と原因論
			2	10/4	遺伝性疾患と奇形・循環障害
			3	10/11	代謝障害と退行性病変
			4	10/18	増殖と修復
			5	11/1	炎症と免疫応答異常
			6	11/8	腫瘍
			7	11/15	う蝕
			8	11/22	確認テスト/歯髄炎
			9	11/29	歯周組織の病態
			10	12/6	口腔粘膜の病変
			11	12/13	嚢胞と腫瘍
			12	1/10	口腔癌
			13	1/17	顎骨の病変
			14	1/24	唾液腺の病変・加齢変化
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	後期試験の解説とまとめ

学習上の注意	病理学は、疾患の病態を学ぶと共に、疾患を確定診断するために必要な学問であるため、授業の配布プリントと教科書を合わせて毎回復習し各疾患を理解すること。		
評価方法	期末試験(80%)・確認テスト(20%)		
教科書	最新 歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1　病理学・口腔病理学　(医歯薬出版)	参考書	

13	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		微生物学(含、免疫学)	単位数		2
担当教員		小山　祐樹	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
微生物がヒトに感染することで生じた病気を感染症といい、感染症が生じないようにする生体の防御能を免疫という。本科目では、病気と病原微生物の関係、および免疫機能について理解する。
また、口腔の微生物が起こす感染症について学修する。

【授業計画】

			1	9/27	歯科衛生士業務での微生物学の必要性、微生物学の歴史について説明できる。細菌の特徴について説明できる。
			2	10/4	真菌,原虫,ウイルスの特徴について説明できる
			3	10/11	感染における微生物の病原因子、生体の抵抗因子について説明できる。
			4	10/18	免疫の概念について説明できる。
			5	11/1	体液性免疫について説明できる。
			6	11/8	細胞性免疫について説明できる。粘膜免疫について説明できる。
			7	11/15	アレルギー、自己免疫疾患について説明できる。
			8	11/22	主な感染症と病原微生物について説明できる。
			9	11/29	化学療法および滅菌と消毒について説明できる。
			10	12/6	口腔環境と口腔常在微生物について説明できる。
			11	12/13	口腔微生物叢とプラークの形成機序について説明できる。
			12	1/10	う蝕について説明できる。
			13	1/17	歯周病と関連疾患について説明できる。
			14	1/24	歯科診療上留意すべき疾患と感染管理について説明できる。
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	解答解説・まとめ

学習上の注意	微生物は非常に沢山の種類があり、全てを学習することは難しい。しかし、歯科医学上必要なもの、さらには国家試験に出題される微生物の種類は限られているため、それらについては名前、特徴をしっかり学習し、今後の臨床的分野の理解を深められるようにする。		
評価方法	期末試験(80%)、小テスト(20%)		
教科書	最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版)	参考書	

14	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		薬理学	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】薬物は薬理作用をもつ化学物質であり、疾患の治療や予防を目的をして適応される。薬物の性質、薬物による生体への影響を理解し、疾患に対する薬物の作用機序や他の組織への副作用を学ぶ。超高齢社会を迎えた現在、高血圧等の全身疾患に対する薬物を服用している患者が多いため、それらの薬剤の影響と対応を学ぶ。

【到達目標】口腔疾患に対する薬剤の種類や作用機序を学ぶとともに、全身疾患に対する内服薬が歯科治療へ与える影響を理解し、歯科衛生士として指導ができる知識を習得する。

【授業計画】

			1	9/29	薬物の作用・動態
			2	10/6	薬物の種類と特徴
			3	10/13	薬物の副作用・取り扱い
			4	10/20	ビタミンとホルモン
			5	10/27	神経系に作用する薬物
			6	11/10	循環器系に作用する薬物
			7	11/17	消化器系に作用する薬
			8	11/24	確認テスト/悪性腫瘍と薬
			9	12/1	抗炎症薬
			10	12/8	痛みと薬
			11	12/15	麻酔薬
			12	1/12	抗感染症薬・消毒薬
			13	1/19	う蝕予防薬・歯内療法薬
			14	1/26	口腔粘膜疾患の薬
			15	2/2	後期期末試験
			16	2/9	後期試験の解説とまとめ

学習上の注意	薬理学は、疾患予防や治療を目的とした薬剤の作用機序を学ぶ重要な学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。		
評価方法	期末試験（80%）・確認テスト（20%）		
教科書	最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学　第2版（医歯薬出版）	参考書	

15	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		口腔衛生学Ⅰ	単位数		2
担当教員		廣川　晃司	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】

歯科疾患の原因と予防に関する理論と実際に関して正しく理解し、患者の教育と指導、歯科公衆衛生活動ならびに地域歯科保健活動を実行するために必要な知識と技術を学ぶ。

【授業計画】

			1	9/27	口腔衛生学の意義、歯と口腔の健康と機能
			2	10/4	歯と口腔の発育変化
			3	10/11	口腔環境
			4	10/18	歯と口腔の付着物と沈着物(1)
			5	11/1	歯と口腔の付着物と沈着物(2)
			6	11/8	口腔清掃(1)
			7	11/15	口腔清掃(2)
			8	11/22	う蝕の予防(1)
			9	11/29	う蝕の予防(2)
			10	12/6	歯とフッ化物(1)
			11	12/13	歯とフッ化物(2)
			12	1/10	歯とフッ化物(3)
			13	1/17	歯周疾患の予防
			14	1/24	口臭と不正咬合　他疾患の予防
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	試験解説・振り返り

学習上の注意	実際に口腔の機能は個人に違いがあるということを理解して評価することを実習により補足することが必要。		
評価方法	期末試験80%、小テスト他20%		
教科書	歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」第4版(学建書院)/歯科衛生士教本「保健情報統計学」(医歯薬)	参考書	

16	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		口腔衛生学Ⅱ（含、歯科統計学）	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】口腔領域の疾患予防とそれに関わる人間と社会の仕組みを学習する。行政が実施する地域における歯科疾患の予防法や保健にかかわるシステムを理解し、それに必要な情報収集、診断、活動計画の立案、成果の評価法を習得する。

【到達目標】保健にまつわるし社会の仕組みを理解するとともに、公衆歯科衛生・地域歯科保健活動に必要な疫学に関する統計調査方法を説明できる。

【授業計画】

1	4/12	疫学の概論と研究手法			
2	4/19	う蝕の診断基準と指標			
3	4/26	歯周疾患に関する指標			
4	5/10	口腔清掃に関する指標			
5	5/17	歯・口腔の健康			
6	5/24	統計調査方法①			
7	5/31	統計調査方法②			
8	6/7	統計調査方法③			
9	6/14	歯科疾患予防			
10	6/21	母子歯科保健			
11	6/28	学校歯科保健			
12	7/5	成人保健			
13	7/12	産業歯科保健			
14	7/19	高齢者の歯科保健			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	疫学を実施する上で必要な統計の基礎や手法を理解し、復習や演習を重ねる。授業時には、理解の確認のために適宜小テストを行う。		
評価方法	期末試験（80%）・小テスト（20%）		
教科書	歯科衛生士テキスト口腔衛生学第4版(学建書院) 最新歯科衛生士教本 保健情報統計学（医歯薬）	参考書	

17	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		衛生行政・社会福祉行政	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生業務との関連を学習する。歯科衛生士法を中心に法律の目的や定義を理解し、業務範囲を確認する。また医療はチーム医療により実施されていることを頭に置き、他の職種との相互関係を築くために必要な医療法、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、社会福祉関連法規を学ぶ。

【到達目標】国民の健康増進と適切な歯科医療を提供するために必要な法律や社会保障を理解する。

【授業計画】

1	4/6	歯科衛生士と法律①			
2	4/13	歯科衛生士と法律②			
3	4/20	歯科医師法、歯科技工士法			
4	4/27	医療法①			
5	5/11	医療法②			
6	5/18	医療関係職種			
7	5/25	医師法・薬剤師法、その他の医療関係職種			
8	6/1	薬事衛生法規			
9	6/8	健康増進法			
10	6/15	母子保健・学校保健			
11	6/22	医療保険			
12	6/29	介護保険			
13	7/6	社会保障に関する法規			
14	7/13	医療の動向			
15	7/20	前期期末試験			
16	7/27	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	法律の名称やその内容は、医療人の心構えとしての基本であるため、教科書やプリントを確認しながら自分のノートを作成して確実に覚えること。		
評価方法	期末試験（90%）・ノート（10%）		
教科書	最新歯科衛生士教本「歯・口腔と予防に関わる人間と社会の仕組み2　歯科衛生士と法律・制度」（医歯薬出版）	参考書	

18	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		衛生学・公衆衛生学	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔　2年次

【授業の概要・到達目標】
【概要】衛生学・公衆衛生学は、社会医学の一分野であり、個人衛生、環境衛生、公害、母子保健、学校保健、地域保健、産業保健、食品衛生、住居衛生、精神衛生など広範囲に渡る。国民の健康を考える上で必要な環境、食生活、保健に関与する知識を養う。災害医療の仕組みや国際保健に関する事項も習得する。
【到達目標】健康に左右する環境や地域保健の仕組みおよび保健活動を学び、今後の地域医療に必要な対策を考えられるようにする。

【授業計画】

			1	9/29	健康と予防
			2	10/6	疫学の意義
			3	10/13	人口統計
			4	10/20	死亡と出生
			5	10/27	健康と環境①
			6	11/10	健康と環境②
			7	11/17	感染症
			8	11/24	健康増進
			9	12/1	健康日本21
			10	12/8	食生活
			11	12/15	地域保健①
			12	1/12	地域保健②
			13	1/19	口腔保健
			14	1/26	災害医療・国際保健
			15	2/2	後期期末試験
			16	2/9	後期試験の解説とまとめ

学習上の注意	法律は変更されることもあるので、ニュース等から社会情勢や環境問題を常に注意しながら授業を受けること。		
評価方法	期末試験(90%)・ノート(10%)		
教科書	最新歯科衛生士教本　歯口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 「保健生態学」（医歯薬出版）	参考書	

19	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		介護技術	単位数		2
担当教員		大滝　周	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】

介護とは、日常生活を安全かつ快適に営むための支援といわれている。現在、超高齢化社会を迎え、口腔機能の維持・増進が必要となっている中で、歯科予防処置、歯科診療の補助や歯科保健指導を担う歯科衛生士の活躍の場はますます広がっている。そのため、安全で安楽な支援を提供するためには、その対象を理解するとともに、その対象に応じた支援が求められている。

授業では、対象の理解および、対象の安全・安楽を考えながら実践するための科学的根拠に基づいた介護の技術について学習する。

【授業計画】

1	5/12	対象の理解			
2	5/12	標準予防策			
3	5/12	標準予防策			
4	5/19	食べること／排泄すること			
5	5/19	高齢者模擬体験			
6	5/19	高齢者模擬体験			
7	5/26	動くこと			
8	6/9	清潔を保持すること			
9	6/16	一次救命処置			
10	6/16	対象の状態把握①			
11	6/16	対象の状態把握①			
12	6/23	認知症			
13	6/23	診療の補助			
14	6/23	対象の状態把握②			
15	7/21	前期末試験			
16	7/28	まとめ			

学習上の注意	本授業については、講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、技術演習を含めた形式で実施する。主体的に授業に臨みましょう！ ＊技術演習の予習として、指示された事前学習を行い、演習に臨む。技術演習の復習として、振り返りシートを用い、学んだこと（理解できたこと、理解できなかったこと、課題を含む）、行動目標の達成状況を振り返る。
評価方法	評価は、①前期期末試験（本試験）（60％）、②実技評価 ・グループワーク・プレゼンテーション・指示された課題および授業の態度（40%）の合計点とする。 再試験あるいは追試験の②の評価は、本試験で使用したものを採用する。

教科書	感染管理ベーシックブック（メヂカルフレンド社）	参考書	

20	区分	専門分野	形式	講義	前期　月曜日
授業科目名		歯科衛生士概論	単位数		2
担当教員		鈴木　幸江　・　広川　香	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、医療人としての基本的態度を学び、多様な科目において知識・技術、倫理的思考法の基礎を修得する。
①歯科衛生士の歴史、歯科衛生学について ②歯科衛生士業務 ③歯科衛生士の 活動の場 ④医療倫理
⑤コミュニケーションについて ⑥歯科衛生過程 ⑦チーム医療 ⑧専門職と組織について
⑨現場での歯科衛生士についてを学ぶ。

【授業計画】

1	4/11	歯科衛生士法と歯科衛生業務			
2	4/18	歯科衛生業務（歯科保健指導）			
3	4/25	歯科衛生業務（歯科予防処置）			
4	5/9	歯科衛生士の歴史および歯科衛生学			
5	5/16	歯科衛生業務（歯科診療補助）			
6	5/23	チーム医療			
7	5/30	業務記録・専門職と組織			
8	6/6	歯科衛生士の活動の現況と活動の場 中間試験			
9	6/13	コミュニケーションの方法			
10	6/20	歯科衛生過程			
11	6/27	医療倫理			
12	7/4	医療安全管理			
13	7/11	現場での実践（歯科衛生士）			
14	7/18	現場での実践（歯科医師・外部講師）			
15	7/25	前期期末試験			
16	8/1	試験解説・まとめ			

学習上の注意	予習は教科書を読んでおくこと。復習は学習ノート・プリントをよく確認しておくこと。		
評価方法	本試験(90%)、授業態度・提出物(10%)		
教科書	『歯科衛生士教本 歯科衛生学総論』全国歯科衛生士教育協議会監修，医歯薬出版	参考書	

21	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		歯科臨床概論(含、医学概論)	単位数		2
担当教員		廣川　晃司	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】

医学的に健康とインフォームドコンセントとは何かを学び、歯科医療の概要として歯と口腔組織について理解して歯科医学の臨床分野として歯科保存療法　補綴治療　小児歯科治療　歯科矯正治療　口腔外科治療　歯科放射線治療の各分野の違いを把握する。歯科臨床専門分野を理解して　歯科診療の流れと歯科衛生士業務の関連を理解する。診療するうえで必要となる、滅菌消毒について理解する。

【授業計画】

1	4/12	口腔内組織の構造と歯と歯周組織について			
2	4/19	健康と医学についてインフォームドコンセントとは何か			
3	4/26	歯科医療と歯科衛生士の主要業務			
4	5/10	歯科医療の特異性について、歯科疾患の概要			
5	5/17	歯科医療の患者対応と注意点			
6	5/24	歯科診療の流れ問診、診査、治療			
7	5/31	歯科疾患診査　治療の概念　救急処置　訪問診療について			
8	6/7	中間試験/解説			
9	6/14	歯科保存治療の歯冠修復と歯内療法			
10	6/21	歯科保存治療の歯周治療			
11	6/28	歯科補綴治療　義歯　クラウン　ブリッジ			
12	7/5	小児歯科治療　矯正歯科治療			
13	7/12	口腔外科治療　歯科放射線診断			
14	7/19	歯科治療の消毒と滅菌			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	試験解説・振り返り			

学習上の注意	学生の多くは歯科医学を学んでいないので　歯科医学、歯科臨床への入門となる。		
評価方法	期末試験80%、中間試験他20%		
教科書	歯科衛生士ための歯科臨床概論(第3版) 医歯薬出版	参考書	

22	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		成人歯科学Ⅰ（歯周）	単位数		2
担当教員		寺中　敏夫	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の病態・治療法・予防法について学習し、歯周病は成人以後の主たる抜歯原因であり、歯科医師のみならず医師との共同作業として歯周治療を実践できる歯科衛生士になるための理解を深める。

【到達目標】①歯周組織の構造を図示し説明できる。②歯周病の原因・リスクファクターを説明できる。③歯周疾患を分類できる。④歯周病治療・予防法を説明できる。⑤歯周検査法の種類と方法を説明できる。⑥歯周基本治療の重要性を理解し、説明できる。⑦再評価、メインテナンス、SPTを説明できる。

【授業計画】

			1	9/29	歯と歯周組織の構造と機能を理解し、健康な状態と病的な状態を図示して説明できる。
			2	10/6	歯周疾患の原因と分類を理解することで、歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。
			3	10/13	プラークの形成過程について理解し、プラークと歯周病の関連を説明できる。
			4	10/20	歯肉炎と歯肉増殖症、その病態と違いについて説明できる。
			5	10/27	歯周炎の分類を理解し、それぞれの病態とその違いを説明できる。
			6	11/10	歯周基本治療、メインテナンスを理解し、説明できる。
			7	11/17	プラークコントロールの重要性とモチベーションの関連について理解し、説明できる。
			8	11/24	ブラッシングテクニックのポイントを理解し、説明できる。
			9	12/1	歯周疾患治療法の補助的清掃用具の種類とその特徴を理解し、説明できる。
			10	12/8	SRPの重要性を理解し、その目的と治療上のポイントを説明できる。
			11	12/15	歯周外科療法の分類を学び、それぞれの目的と特徴を説明できる。
			12	1/12	歯周治療と口腔機能回復治療を学習し、その意義を説明できる。
			13	1/19	歯周疾患治療法におけるメインテナンス、SPTの意義とそのポイントを学び、説明できる。
			14	1/26	振り返り。ペリオドンタルメディシンの概念を再度履修し、歯周治療の実際を説明できる。
			15	2/2	後期期末試験
			16	2/9	後期期末試験解説・振り返り

学習上の注意	感染性疾患で生活習慣病の歯周病は、成人の約80%以上が罹患しており歯の喪失の主因である。講義では歯周病の原因、治療、ならびに予防について学修する。歯周病の予防、治療、メインテナンスにおいて、歯科衛生士の果たす役割は極めて大きく、治療現場で中心となって活躍することを認識する。
評価方法	後期期末試験（80%）、および小テストと受講態度（20%）

教科書	歯周病学／最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）	参考書	臨床歯周病学　第2版（医歯薬出版）

23	区分	専門分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		成人歯科学Ⅱ（修復・歯内）	単位数		2
担当教員		寺中　敏夫	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
【概要】歯科の二大疾患の一つであるう蝕と他の硬組織疾患、およびこれらに継発して発症する歯髄と根尖歯周組織の疾患の種類と病態、検査法、歯の切削法、修復法、根管治療法、ならびに治療に必要な前準備等の総括的事項について理解・修得し、QOLの延伸に寄与することを学ぶ。
【到達目標】①う蝕などの硬組織疾患の種類、診査法およびリスクファクターについて説明できる。②う蝕・根管治療の準備について理解し、説明できる。③修復・根管治療法の種類と特徴およびメインテナンスを説明できる。④治療器具を説明できる。⑤根尖性歯周炎の診断と治療および必要な器具を説明できる。

【授業計画】

1	4/11（月）	修復学の概要を理解し、歯の硬組織疾患の基礎、診査法と臨床応用を説明できる。			
2	4/14	う蝕進行と再石灰化を説明できる。切削器具を説明できる。窩洞を説明できる。			
3	4/21	グラスアイオノマーセメント修復法の基礎と臨床を学び、特徴と治療上の注意点を説明できる。			
4	4/28	コンポジットレジン修復法についてその硬化（重合）メカニズムを説明できる。			
5	5/12	接着性コンポジットレジン修復法の接着機構について学び、治療上の注意点を説明できる。			
6	5/19	接着性コンポジットレジン修復法の操作手順、補助法を学び、治療上の注意点を説明できる。			
7	5/26	インレー修復法の特徴について学び、コンポジットレジン修復法との違いを説明できる。			
8	6/2	歯内療法学の意義と目的を理解し、歯髄の構造とその機能について説明できる。			
9	6/9	種々な歯髄疾患の臨床的な特徴を学習し、それぞれの臨床的な違いについて説明できる。			
10	6/16	歯髄疾患に対する治療法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。			
11	6/23	抜髄法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。			
12	6/30	根尖性歯周炎の分類を学び、臨床的な特徴と違いを説明できる。			
13	7/7	根尖性歯周炎の治療法を学び、その意義と治療に必要な器具について説明できる。			
14	7/14	振り返り、症例検討			
15	7/21	前期期末試験			
16	7/28	前期期末試験の解説・振り返り			

学習上の注意	主にう蝕治療（修復）、および歯髄疾患と根尖性歯周炎（歯内療法）の治療に必要な知識、手順、手技を学習し、治療現場で歯科衛生士としての業務を遂行できる能力を修得する。		
評価方法	前期期末試験（80%）、および小テストと受講態度（20%）		
教科書	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法（医歯薬出版）	参考書	保存修復学　第7版　医歯薬出版 歯内治療学　第5版　医歯薬出版

24	区分	専門分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		成人歯科学Ⅲ(補綴)	単位数		2
担当教員		三浦　英司	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

う蝕、歯周病や外傷などにより歯質が崩壊あるいは歯や顎を喪失する。補綴治療はこの様な場合にクラウン・ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラントなどの人工物で補うことである。これら補綴装置の特徴、意義、目的からメンテナンスについて理解する。

【授業計画】

1	4/11	Ⅰ編　補綴歯科治療の基礎 1章　歯科補綴の概要			
2	4/18	・補綴歯科治療の方法と補綴装置 ・補綴治療における衛生士の役割			
3	4/25	2章　補綴歯科治療の基礎知識			
4	5/9	Ⅱ編　補綴歯科治療の実際と衛生士の役割 1章　補綴歯科における検査			
5	5/16	2章　クラウン・ブリッジ治療 ・クラウン・ブリッジ治療の概要			
6	5/23	・クラウンブ・リッジ治療治療の流れと診療の補助			
7	5/30	3章　有床義歯治療 ・全部床義歯治療の概要			
8	6/6	・全部床義歯治療の流れと診療の補助			
9	6/13	・部分床義歯治療の概要			
10	6/20	・部分床義歯治療の流れと診療の補助			
11	6/27	4章　インプラント治療 ・インプラント治療の概要			
12	7/4	・インプラント治療の流れと診療の補助			
13	7/11	5章　特殊な口腔内装置を用いる治療 6章　補綴歯科治療における機材の管理			
14	7/18	まとめ			
15	7/25	前期期末試験			
16	8/1	試験の解説，振り返り			

学習上の注意	予習・復習を行うことが望ましい。随時，確認のための小テストを行う。		
評価方法	本試験(80%)、授業態度等(20%)		
教科書	最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版」(医歯薬出版社)　歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第2版(学建書院)	参考書	

25	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		高齢者歯科学(含、先端歯科学)	単位数		2
担当教員		元開　富士雄	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
老化の概念を把握し、老化の社会性と心理と身体におけるプロセスを理解することで、老化における口腔機能の役割に重要性を理解する。また、口腔ケアの2面性を知りセルフプラークコントロールと口腔機能の低下防止の対応ができるようにする。介護者の口腔ケアにおける注意点と口腔ケアの実践を知る。

【授業計画】

			1	9/29	老年学1　超高齢社会が目指す社会システム
			2	10/6	老年学2　障害発達理論と健康の概念
			3	10/13	身体と心の老化　1　老化と加齢
			4	10/20	身体と心の老化　2　老化の全身変化
			5	10/27	身体と心の老化　3　老化と脳と心の変化
			6	11/10	高齢者の全身疾患
			7	11/17	加齢による口腔内変化
			8	11/24	高齢者の口腔内疾患
			9	12/1	高齢者の評価
			10	12/8	高齢者の薬剤服用
			11	12/15	高齢者の口腔ケアの基本
			12	1/12	全身疾患を持つ介護者の口腔衛生管理
			13	1/19	介護者の口腔衛生指導
			14	1/26	介護者への摂食嚥下の介助
			15	2/2	後期期末試験
			16	2/9	高齢者の口腔管理まとめ(口腔機能システム)

学習上の注意	スライドおよびプリントによる講義		
評価方法	試験およびレポートにより評価		
教科書	永末書店　歯科衛生士講座「高齢者歯科学」	参考書	

26	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		障害者歯科学	単位数		2
担当教員		篠塚　修	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
障害の概念を理解するとともに障害の種類、身体的、心理的な特徴を把握する。障害者の歯科診療ならびに口腔衛生指導に必要な基本的知識を習得する。

【授業計画】

1	4/12	障害の概念・分類			
2	4/19	障害者の身体的・心理的特徴 （知的能力障害）			
3	4/26	障害者の身体的・心理的特徴 （ダウン症候群）			
4	5/10	障害者の身体的・心理的特徴 （自閉スペクトラム症）			
5	5/17	障害者の身体的・心理的特徴 （脳性麻痺・重症心身障害）			
6	5/24	障害者の身体的・心理的特徴 （筋ジストロフィー・てんかん）			
7	5/31	障害者の身体的・心理的特徴 （視覚障害・聴覚障害）			
8	6/7	障害者の行動調整法 1			
9	6/14	障害者の行動調整法 2			
10	6/21	障害者の行動調整法 3			
11	6/28	地域における障害者歯科			
12	7/5	障害者歯科における口腔衛生指導			
13	7/12	摂食嚥下機能の発達と障害			
14	7/19	講義のまとめ			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	前期期末試験解説			

学習上の注意	講義後は各自復習して下さい。		
評価方法	期末試験に日頃の受講態度等を加味して評価する。		
教科書	「最新歯科衛生士教本　障害者歯科　第2版」 医歯薬出版	参考書	「スペシャルニーズデンティストリー　障害者歯科 第2版」 医歯薬出版

27	区分	専門分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		小児歯科学	単位数		2
担当教員		元開　富士雄	履修年次		口腔　2年次

【授業の概要・到達目標】
口腔から子供を全体として捉えることで包括的な歯科診療体系を実践できるようにする。小児の歯科治療や予防に対する知識だけでなく、子供の背景にある生活や環境から予防を実践できるようにする。また、個々の子供の感覚入力による環境適応能力を把握することで診療がスムーズに運ぶようになることを目指す。

【授業計画】

1	4/7	小児歯科概論　口を通して子供の全体を掴む			
2	4/14	小児の身体発達と心理発達			
3	4/21	小児の口腔発達1　顎口腔と歯列咬合の発達			
4	4/28	小児の口腔発達2　口腔機能発達			
5	5/12	小児の歯と口の疾病1　先天疾患と軟組織疾患			
6	5/19	小児の歯と口腔疾病2　小児のう蝕			
7	5/26	小児の歯と口腔の疾病3　歯列咬合不正			
8	6/2	小児の取り扱い			
9	6/9	小児の口腔衛生指導と治療計画			
10	6/16	小児の栄養指導と予防			
11	6/23	小児のう蝕治療			
12	6/30	小児の咬合管理			
13	7/7	発達障害の概念			
14	7/14	発達障害児の取り扱い／口腔習癖			
15	7/21	前期期末試験			
16	7/28	小児歯科学の実践のまとめ			

学習上の注意	特になし、講義はスライドおよびプリントによる		
評価方法	本試験およびレポート提出により評価		
教科書	永末書店 歯科衛生士講座「小児歯科学」	参考書	

28	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		歯科矯正学	単位数		2
担当教員		小野　将弘	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
矯正歯科学の定義や知識と概念、治療の必要性、利益とリスクを学習する。また、一般的な矯正治療の流れ、臨床で歯科衛生士が行う手技、業務を学び、患者中心の医療とチーム医療、チームの一員としての歯科衛生士の役割を学ぶ。

【授業計画】

1	4/12	Ⅰ編 矯正歯科治療に関する基礎知識 1章　矯正歯科治療の概要			
2	4/19	2章　成長発育 前編			
3	4/26	2章　成長発育 後編 3章　正常咬合と不正咬合 前編			
4	5/10	3章　正常咬合と不正咬合 後編			
5	5/17	4章　矯正歯科診断			
6	5/24	5章　矯正歯科治療と“力” –矯正力・顎整形力・保定–			
7	5/31	6章　矯正装置			
8	6/7	Ⅱ編矯正歯科治療の実際 1章　上下顎の前後的関係の不調和 2章　上下顎の垂直的関係の不調和(過蓋咬合・開咬) 3章　成人矯正			
9	6/14	4章　口腔顔面の形成異常と変形 5章　歯の埋伏と歯数の異常			
10	6/21	復習① Ⅱ編6章　矯正歯科治療時のトラブルへの対応 Ⅱ編7章　健康保険が適用される矯正歯科治療			
11	6/28	Ⅲ編 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 1章　矯正歯科診断にかかわる業務 2章　矯正歯科診療時の業務 前編			
12	7/5	2章　矯正歯科診療時の業務 中編			
13	7/12	2章　矯正歯科診療時の業務 後編			
14	7/19	3章　矯正歯科患者と口腔保健管理 4章　口腔筋機能療法			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	復習②			

学習上の注意	授業開始時に毎回小テストを行います、出題範囲は原則前回講義分とします。 欠席の場合は小テストは0点となります。日頃から復習の習慣を身に着けましょう。		
評価方法	授業態度 小テスト 筆記試験		
教科書	最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正　医歯薬出版株式会社	参考書	

29	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		口腔外科学(含、麻酔学)	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔　2年次

【授業の概要・到達目標】
【概要】顎・顔面領域の外科的疾患について、その原因、診断、症状、治療法および予後について理解する。各疾患の特徴を捉え、口腔症状と全身疾患の関連性について理解する。口腔外科手術の準備、介助および片付けがスムーズに実施できる知識を身につける。局所麻酔や全身麻酔の概念と作用機序を学ぶ。
【到達目標】顎・顔面領域の外科的疾患の症状や治療法を理解し、手術の介助が行えると同時に、患者に寄り添える医療人になれるようにする。

【授業計画】

1	4/12	口腔外科の概要			
2	4/19	基礎疾患と歯科治療			
3	4/26	口腔領域の先天異常と発育異常			
4	5/10	顎・口腔領域の損傷・機能障害			
5	5/17	口腔粘膜の病変			
6	5/24	炎症性疾患			
7	5/31	顎・口腔領域の嚢胞性疾患			
8	6/7	顎・口腔領域の腫瘍①			
9	6/14	顎・口腔領域の腫瘍②			
10	6/21	唾液腺疾患・神経疾患			
11	6/28	口腔外科診療の実際			
12	7/5	歯科麻酔(局所麻酔)			
13	7/12	歯科麻酔(全身麻酔)			
14	7/19	臨床における歯科衛生士のかかわり			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	口腔領域の外科疾患の特徴を理解するためには、何度も繰り返し勉強することが必要である。講義内容は教科書で予習をし、講義が終了した後は復習をすること。確認のために、定期的に小テストを行う。		
評価方法	期末試験(80%)・小テスト(20%)		
教科書	最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患「口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)	参考書	

30	区分	専門分野	形式	講義	前期　火曜日
授業科目名		歯科予防処置論	単位数		2
担当教員		鯉江　夏美	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要･到達目標】
口腔疾患を予防し、人々の歯･口腔の健康を維持･増進させるための専門的な知識を修得する。
① 歯周病の発生･原因
② 歯周病予防
③ う蝕の発生･原因
④ う蝕予防処置について学ぶ。

【授業計画】

1	4/12	歯科予防処置論の概要・歯科予防処置の基礎知識			
2	4/19	歯・歯周組織の検査について			
3	4/26	SRPに必要な診査器具について			
4	5/10	SRPに必要な器具・手用スケーラーについて			
5	5/17	ハンドスケーラーの操作方法			
6	5/24	歯面清掃・研磨			
7	5/31	歯周の総まとめ			
8	6/7	中間試験/振り返り			
9	6/14	う蝕予防処置法の基礎知識			
10	6/21	リスクテスト①			
11	6/28	リスクテスト②			
12	7/5	フッ化物応用法①			
13	7/12	フッ化物応用法②			
14	7/19	メインテナンス・予防プログラム			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	解答・解説			

学習上の注意	予習は教科書を読んでおくこと。復習は学習ノート・プリントを確認しておくこと		
評価方法	授業態度、期末試験、中間試験で総合的に評価する		
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論』全国歯科衛生士教育協議会監修,医歯薬出版	参考書	『最新歯科衛生士教本 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版

31	区分	専門分野	形式	実習	後期　金曜日
授業科目名		歯科予防処置Ⅰ(歯周病予防1)	単位数		1
担当教員		鯉江 夏美	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識を修得する。
①歯・歯周組織の検査
②手用スケーラーの種類と特徴について
③シックルスケーラーの操作方法について
④キュレットの操作方法について学び、スケーラー操作等はマニキンを使用する。

【授業計画】　(各3時間)

			1	9/30	歯・歯周組織の検査・プローブの操作について
			2	10/7	手用スケーラー操作の基礎
			3	10/14	歯面研磨（外部講師）
			4	10/28	マニキン　① 執筆状変法把持法について シックルスケーラー操作
			5	11/4	マニキン　②前歯部の操作について シックルスケーラー操作
			6	11/11	マニキン　③前歯部の操作について シックルスケーラー操作
			7	11/18	マニキン　④ 前歯部総復習 シックルスケーラー操作・エキスプローラー操作
			8	11/25	マニキン　⑤下顎臼歯部の操作について シックルスケーラー・エキスプローラー操作
			9	12/2	マニキン　⑥下顎臼歯部の操作 シックルスケーラー・エキスプローラー・プローブ操作
			10	12/9	マニキン　⑦上顎臼歯部の操作 シックルスケーラー・エキスプローラー・プローブ・操作
			11	12/16	マニキン　⑧キュレットの基本操作 プローブ・操作
			12	1/13	マニキン　⑨キュレットの操作上顎・プローブ・操作
			13	1/20	マニキン　⑩キュレットの操作下顎・プローブ・操作
			14	1/27	マニキン　⑪　総まとめ シックル・キュレット・エキスプローラー・プローブ操作
			15	2/3	後期期末試験
			16	2/10	解答・解説

学習上の注意	予習は教科書を読んでスケーラー操作の練習をする。復習は学習ノートをみてスケーラー操作の練習をする。		
評価方法	本試験（60%）および実技試験や授業態度（40%）		
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版	参考書	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版

32	区分	専門分野	形式	実習	前期　月曜日
授業科目名		歯科予防処置Ⅱ(歯周病予防2)	単位数		1
担当教員		鯉江 夏美	履修年次		口腔　2年次

【授業の概要・到達目標】
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識・技術を修得する。

【授業計画】　(各3時間)

1	4/12	マニキン　⑭　下顎臼部キュレット操作・プローブの操作			
2	4/19	マニキン　⑮下顎臼部キュレット操作・プローブの操作・探針操作			
3	4/26	マニキン　⑯　上顎臼部キュレット操作・プローブの操作			
4	5/10	マニキン　⑰　上顎臼部キュレット操作・プローブの操作・探針操作			
5	5/17	マニキン　⑱　上下顎臼部キュレット操作・プローブの操作			
6	5/24	マニキン　⑲　全顎キュレット操作・プローブの操作・探針操作			
7	5/31	マニキン　⑳　全顎臼部キュレット操作・プローブの操作・探針操作			
8	6/7	歯面研磨①　上下顎前歯部			
9	6/14	歯面研磨②　上顎臼歯部			
10	6/21	歯面研磨③　下顎臼歯部			
11	6/28	歯面研磨④　全顎臼歯部			
12	7/5	マニキン総復習①			
13	7/12	マニキン総復習②			
14	7/19	マニキン総復習③			
15	7/26	前期期末試験			
16	8/2	解答・解説			

学習上の注意	歯周病予防Ⅰを確認しながら、実技を行い、相互実習へとつなげるため、復習をすること。		
評価方法	期末試験（60%）および実技試験や授業態度（40%）		
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版	参考書	

33	区分	専門分野	形式	実習	前期　月曜日
授業科目名		歯科予防処置Ⅲ(歯周病予防3)	単位数		1
担当教員		鯉江　夏美　・　鈴木　幸江	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識・技術を修得する
① 必要な器材の準備ができる。　② 口腔内の診査ができる。
③ シックルスケーラーの操作方法が説明できる　④ キュレットの操作方法が説明できる。
⑤ 超音波スケーラー操作ができる。　⑥ エアスケーラーの操作ができる。
⑦ 医療安全を考えて実施する。　⑧ 相互実習で技術の向上に努める。

【授業計画】　(各３時間)

1	4/6	相互実習　口腔内診査・歯周組織検査			
2	4/13	歯面研磨			
3	4/20	相互スケーリング1シックル：上顎臼歯部			
4	4/27	相互スケーリング2シックル：下顎臼歯部			
5	5/11	相互スケーリング 3 キュレット：上顎臼歯部			
6	5/18	相互スケーリング 4 キュレット：下顎臼歯部			
7	5/25	超音波スケーラー 1(外部講師)			
8	6/1	超音波スケーラー 2			
9	6/8	エアスケーラー 1			
10	6/15	エアスケーラー 2			
11	6/22	相互スケーリング　上顎　シックル、キュレット			
12	6/29	相互スケーリング　下顎　シックル、キュレット			
13	7/6	相互スケーリング　全顎　シックル、キュレット			
14	7/13	相互スケーリング　まとめ　実技演習			
15	7/20	前期期末試験			
16	7/27	解答・解説			

学習上の注意	部位別のポジション(術者・患者)および使用スケーラーについて確認しておく.		
評価方法	期末試験(60%)および実技試験、授業態度(40%)により評価します。		
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版　『最新歯科衛生士教本　歯周病学第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版	参考書	

34	区分	専門分野	形式	実習	前期　木曜日
授業科目名		歯科予防処置Ⅳ(う蝕予防処置)	単位数		1
担当教員		鈴木　幸江　・(広川　香)	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕予防処置法(フッ化物歯面塗布法、小窩裂溝填塞法)やその他関連項目(う蝕活動性試験、フッ化ジアンミン銀塗布法、PMTC)の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等の知識および専門的な技術、態度を修得する。

【授業計画】　(各3時間)

1	4/7	う蝕予防処置の基礎			
2	4/14	う蝕活動性試験①			
3	4/21	う蝕活動性試験②			
4	4/28	フッ化物の応用①			
5	5/12	フッ化物の応用②			
6	5/19	フッ化物歯面塗布法①			
7	5/26	フッ化物歯面塗布法②			
8	6/2	フッ化ジアンミン銀の応用			
9	6/9	小窩裂溝填塞法①			
10	6/16	小窩裂溝填塞法②			
11	6/23	PMTC①			
12	6/30	PMTC②			
13	7/7	PMTC③			
14	7/14	メインテナンス			
15	7/21	後期期末試験			
16	7/28	試験解説・まとめ			

学習上の注意	教科書から予習し、授業資料を復習して知識と実技を身に着ける。		
評価方法	期末試験(80%)、提出物・実習態度(20%)		
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版	参考書	

35	区分	専門分野	形式	講義	前期　金曜日
授業科目名		口腔保健管理法	単位数		2
担当教員		鈴木　幸江・　広川　香	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

う蝕や歯周病の口腔保健管理、周術期の口腔のケア等歯科衛生士としての基本を学び、チーム医療の一員として臨床へ対応できるようになる。また、大規模災害時における歯科衛生士の活動の重要性を知る。

【授業計画】

1	4/8	歯科衛生士過程			
2	4/15	妊産婦の口腔保健管理			
3	4/29	乳幼児・学童期期の口腔保健管理			
4	5/6	青年期の口腔保健管理、喫煙			
5	5/13	歯周疾患の継続管理			
6	5/20	歯周疾患の継続管理・糖尿病			
7	5/27	保存修復後の継続管理			
8	6/3	矯正治療後・補綴物装着後の継続管理			
9	6/10	大規模災害時の口腔管理			
10	6/17	周術期の口腔管理・病棟、チーム医療			
11	6/24	高齢者の口腔保健管理			
12	7/1	要介護者の口腔保健管理			
13	7/8	要介護高齢者(居宅・施設における)と 地域歯科保健活動における継続管理			
14	7/15	業務記録			
15	7/22	前期期末試験			
16	7/29	試験解説・まとめ			

学習上の注意	1年次科目(歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導)について、復習しておくこと		
評価方法	本試験90%・提出物・授業態度10%		
教科書	「歯科予防処置・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会	参考書	

36	区分	専門分野	形式	講義	後期　月曜日
授業科目名		歯科保健指導論 I	単位数		2
担当教員		広川　香	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
多様な生活習慣・生活環境・健康状態の人に、専門的な立場からの歯科保健指導のための知識・技術を学び、修得する。

【授業計画】

			1	9/26	歯科保健指導の概要
			2	10/3	口腔清掃指導法
			3	10/17	口腔清掃指導法
			4	10/24	口腔清掃指導法
			5	11/7	口腔清掃指導法
			6	11/14	対象者の把握・記録法
			7	11/21	対象者の把握・記録法
			8	11/28	対象者の把握・記録法
			9	12/5	対象者の把握・記録法
			10	12/12	対象者の把握・記録法
			11	12/19	歯科衛生士過程
			12	1/16	歯科保健指導・対処法
			13	1/23	歯科保健指導・対処法
			14	1/30	歯科保健指導・対処法
			15	2/6	後期期末試験
			16	2/13	試験解説・振り返り

学習上の注意	教科書を読み、実際の流れと実施のポイントを理解しておく。		
評価方法	本試験80%、提出物・実習態度20%		
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会編,医歯薬出版	参考書	

37	区分	専門分野	形式	実習	後期　水曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅱ	単位数		2
担当教員		広川　香　・　鈴木　幸江	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】
各ライフステージ別の一般的特徴、口腔の特徴及び歯科保健行動を理解、説明できる。健康と疾病について理解し、口腔の健康を維持・増進するための知識、技術および態度を修得する。

【授業計画】　（各6時間）

			1	9/28	歯科衛生士過程
			2	10/5	ライフステージ別指導　妊産婦
			3	10/12	ライフステージ別指導　学齢期 青年期
			4	10/19	ライフステージ別指導　成人　歯周
			5	10/26	ライフステージ別指導　補綴・矯正治療患者
			6	11/2	ライフステージ別指導　障害者
			7	11/9	ライフステージ別指導　高齢者　要介護者
			8	11/16	ライフステージ別指導　摂食嚥下
			9	11/30	ライフステージ別指導　摂食嚥下
			10	12/7	後期期末試験
			11	12/14	ライフステージ別指導　高齢者
			12	1/11	ライフステージ別指導　アセスメント
			13	1/18	ライフステージ別指導　アセスメント
			14	1/25	指導体験実習
			15	2/1	指導体験実習
			16	2/8	まとめ

学習上の注意	1年時の保健指導論を復習しておく		
評価方法	期末本試験90%、授業態度、レポート10%		
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論、改訂版」全国歯科衛生士教育協議会編、医歯薬出版	参考書	

38	区分	専門分野	形式	実習	前期　水曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅲ	単位数		1
担当教員		広川　香	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】
集団を対象とした歯科知識、技術および態度を修得する。集団を対象にした指導目標、指導案、教材を作成し、地域、教育現場で、コミュニケーションや実践方法を学ぶ。

【授業計画】　（各3時間）

1	4/6	集団の歯科衛生教育　授業計画立案			
2	4/13	集団の歯科衛生教育　対象者の把握			
3	4/20	集団指導　指導案			
4	4/27	集団指導　指導案			
5	5/11	集団指導　指導案　原稿			
6	5/18	集団指導　原稿			
7	5/25	集団指導　原稿　教材			
8	6/1	集団指導　原稿　教材			
9	6/8	集団指導　教材			
10	6/15	集団指導　教材			
11	6/22	集団指導　教材			
12	6/29	集団指導　教材			
13	7/6	集団指導　仕上げ			
14	7/13	総合前期末試験			
15	7/20	集団指導　予行演習			
16	7/27	集団指導　予行演習　仕上げ			

学習上の注意	歯科保健指導論で学んだことを復習しておく		
評価方法	総合期末試験80%、授業態度、提出物20%		
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論,改訂版」全国歯科衛生士教育協議会編、医歯薬出版	参考書	

39	区分	専門分野	形式	講義	後期　木曜日
授業科目名		栄養指導	単位数		2
担当教員		鯉江　夏美	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】
日本の食生活の状況と現代の食生活の問題点などを学ぶ。　また、ライフステージ別に、歯科衛生士として歯科保健指導に食生活指導を取り入れる事が出来る。

【授業計画】

			1	9/29	食生活の概要（1）
			2	10/6	食生活の概要（2）
			3	10/13	食生活指導の実践（1）
			4	10/20	ライフステージ別の食生活指導①
			5	10/27	ライフステージ別の食生活指導②
			6	11/10	ライフステージ別の食生活指導③
			7	11/17	ライフステージ別の食生活指導④
			8	11/24	生活習慣病
			9	12/1	歯周疾患関連全身疾患
			10	12/8	後期期末試験
			11	12/15	食生活指導の実践（1）
			12	1/12	食生活指導の実践（2）
			13	1/19	食生活指導の実践（3）
			14	1/26	食生活指導の実践（4）
			15	2/2	食生活指導の実践（5）
			16	2/9	栄養指導の総まとめ

学習上の注意	歯科保健指導の知識との総合知識をもとに、食生活指導を取り入れられるように深い学習が求められる。 また、国家試験にも通づる分野のため十分に予習・復習をすること。		
評価方法	①期末試験 ②出席状況、レポート提出、実習態度		
教科書	『最新歯科衛生士教本.歯科予防処置論.歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修,医歯薬出版『最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版	参考書	

40	区分	専門分野	形式	講義	前期 火曜日
授業科目名		歯科診療補助論 I	単位数		2
担当教員		宇佐美　麻里	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
歯科診療の補助を行う上での基本的な専門知識を習得する。
①歯科診療補助の規定および業務範囲を理解する。
②滅菌・消毒・洗浄の基本を習得する。
③標準予防策や偶発事故の防止について理解、対応できる。
④廃棄物の処理方法など診療室の管理ができる能力を養う。
⑤歯科衛生士として周囲と円滑なコミュニケーションを図るための基本的な作法を習得する。

【授業計画】

1	4/7	オリエンテーション・歯科衛生士の役割			
2	4/14	歯科診療補助の概要			
3	4/21	医療安全			
4	4/28	感染予防			
5	5/12	手指消毒			
6	5/19	滅菌と消毒1			
7	5/26	滅菌と消毒2			
8	6/2	医療廃棄物／中間試験			
9	6/9	歯科診療室の環境			
10	6/16	患者対応			
11	6/23	共同動作			
12	6/30	器具の受け渡し			
13	7/7	バキュームテクニック			
14	7/14	まとめ			
15	7/21	前期期末試験			
16	7/28	期末試験の振り返り			

学習上の注意	予習は教科書で行う。 復習は配布プリント・ノートを中心に行う。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(60%)、その他授業態度・レポート提出(10%)による総合評価		
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論』 (医歯薬出版株式会社)	参考書	

41	区分	専門分野	形式	実習	後期　水曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅱ	単位数		2
担当教員		宇佐美　麻里　・　金坂　絢子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。
①各衛生材料の作成と準備を行える。
②歯科材料を適切に取り扱うことができる。
③診療の補助における基本的な技術を習得する。

【授業計画】　（各6時間）

			1	9/28	歯科材料の取り扱い
			2	10/5	歯科器具の取り扱い・小材料作成法
			3	10/12	アルジネート印象材
			4	10/19	精密印象
			5	10/26	スタディモデル作製
			6	11/2	合着用セメント・接着材
			7	11/9	仮着用セメント・圧排糸
			8	11/16	仮封材1
			9	11/30	仮封材2
			10	12/7	ラバーダム防湿
			11	12/14	暫間被覆冠作製
			12	1/11	個人トレー作製
			13	1/18	口腔内撮影法
			14	1/25	成形修復材
			15	2/1	後期期末試験
			16	2/8	期末試験の振り返り

学習上の注意	予習は教科書・配布資料で行う。 復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。		
評価方法	期末試験(60%)、実習態度(20%)、レポート提出・実技試験(20%)による総合評価		
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参考書	

42	区分	専門分野	形式	講義	後期　金曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅲ	単位数		2
担当教員		宇佐美　麻里　・　金坂　絢子	履修年次		口腔 1年次

【授業の概要・到達目標】
各種歯科材料の理工学的知識を習得する。
①歯科材料の種類・取り扱い上の注意点を説明できる。
②歯科材料の使用目的を理解する。
③理論的に知識を習得し、適切に診療補助が出来る。

【授業計画】

			1	9/30	歯科材料の基礎
			2	10/7	歯科機器の取り扱い
			3	10/14	印象材の種類と用途
			4	10/28	印象材の性質
			5	11/4	模型用材料
			6	11/11	合着材・接着剤1
			7	11/18	合着材・接着剤2
			8	11/25	仮着用セメント
			9	12/2	仮封材1
			10	12/9	ラバーダム防湿・歯肉圧排
			11	12/16	暫間修復材
			12	1/13	ワックス
			13	1/20	金属・セラミック
			14	1/27	成形修復材
			15	2/3	後期期末試験
			16	2/10	期末試験の振り返り

学習上の注意	予習は教科書で行う。 復習は、配布プリントを中心に行う。		
評価方法	期末試験(80%)、授業態度(10%)、小テスト(10%)による総合評価		
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参考書	

43	区分	専門分野	形式	実習	前期　水・金曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅳ	単位数		2
担当教員		宇佐美　麻里　・　金坂　絢子	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
歯科診療の補助・介助を安全で適切に行うために診療器具の用途や管理方法を学ぶ。
①器具の名称・取り扱いを説明できる。
②歯科診療の術式に沿った器具の準備・片付けを行える。
③歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を理解する。

【授業計画】　(各3時間)

1	4/6	歯科診療器材の管理1	17	6/8	歯科診療器具　ホワイトニング1
2	4/8	歯科診療器材の管理2	18	6/10	歯科診療器具　ホワイトニング2
3	4/13	歯科診療器具　保存修復1	19	6/15	歯科診療器具　小児1
4	4/15	歯科診療器具　保存修復2	20	6/17	歯科診療器具　小児2
5	4/20	歯科診療器具　歯内療法1	21	6/22	歯科診療器具　矯正1
6	4/27	歯科診療器具　歯内療法2	22	6/24	歯科診療器具　矯正2
7	4/29	歯科診療器具　歯内療法3	23	6/29	歯科診療器具　矯正3
8	5/6	歯科診療器具　歯内療法4	24	7/1	歯科診療器具　高齢者・障害者1
9	5/11	歯科診療器具　補綴1	25	7/6	歯科診療器具　高齢者・障害者2
10	5/13	歯科診療器具　補綴2	26	7/8	歯科診療器具　高齢者・障害者3
11	5/18	歯科診療器具　補綴3	27	7/13	歯科診療器具　高齢者・障害者4
12	5/20	歯科診療器具　歯科麻酔	28	7/15	歯科診療器具　インプラント
13	5/25	歯科診療器具　歯周治療	29	7/20	前期期末試験
14	5/27	歯科診療器具　口腔外科1	30	7/27	期末試験の振り返り
15	6/1	歯科診療器具　口腔外科2	31	7/29	期末試験の振り返り
16	6/3	歯科診療器具　口腔外科3			

学習上の注意	予習は教科書、配布資料で行う。 復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。
評価方法	期末試験(60%)、実習態度(20%)、その他レポート提出など(20%)による総合評価

教科書	最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参考書	

44	区分	専門分野	形式	講義	前期　金曜日
授業科目名		歯科放射線・臨床検査学	単位数		2
担当教員		富田　美穂子	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

【概要】画像診断は日常の歯科診療に不可欠であるため、撮影が円滑に行われるように歯科衛生士が補助する。そのために放射線の性質、画像検査法、診断、放射線による影響、放射線治療について学ぶ。臨床検査学では、歯科衛生士として習得すべき一般検査業務の概要を理解し、歯科臨床における歯科的検査の意義と方法を学ぶ。

【到達目標】放射線の原理や使用方法を学び、疾患に対するレントゲン撮影の補助ができる。患者の疾患を理解したうえで、適切な検査の概要を説明でき、それらの異常値を判断できる。

【授業計画】

1	4/8	歯科医療と放射線			
2	4/15	X線画像の形成			
3	4/29	歯科におけるX線検査①			
4	5/6	歯科におけるX線検査②			
5	5/13	口内法撮影の実際と歯科衛生士の役割			
6	5/20	パノラマX線撮影の実際と歯科衛生士の役割			
7	5/27	写真処理と画像保管の実際 放射線治療と口腔管理			
8	6/3	歯科放射線講義のまとめ/確認テスト			
9	6/10	臨床検査			
10	6/17	生体検査			
11	6/24	検体検査			
12	7/1	口腔領域の臨床検査			
13	7/8	摂食嚥下関連の検査			
14	7/15	臨床検査学講義のまとめ/確認テスト			
15	7/22	前期期末試験			
16	7/29	前期試験の解説とまとめ			

学習上の注意	学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。		
評価方法	期末試験（80%）、確認テスト（20%）		
教科書・参考書	最新 歯科衛生士教本　歯科放射線（医歯薬出版） 最新 歯科衛生士教本　臨床検査（医歯薬出版）	参考書	

45	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨床実習Ⅰ－1(歯科診療所)	単位数		8
担当教員		広川 香 ・鯉江 夏美 ・宇佐美 麻里	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
臨床の場で歯科衛生士の基本姿勢を学習し、歯科衛生士業務を実践する。

【授業計画】
Ⅰ　提携病院における実習
(実習方法および内容)オリエンテーション時に概要説明を行う。
上記施設は総合歯科、特殊診療科、障害者歯科、小児歯科、矯正科、口腔外科等の診療分野に分かれており、各科において実習できるように配当される。また、口腔外科では病室における実習も含み、看護師の患者さんへの対応なども学習する。実施要項に各科の到達目標を示す。
(予習)配布された学習ノートや資料で事前学習を行う。
(復習)実習した内容を正しく理解し、把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を記録し、指導者より点検を受ける。学習ノートに実習で得た知識を書き加え整理する。
(実習内容達成度自己評価)最終日に調査票に記入し、提出する。
各科終了後、レポートを提出する。全実習終了後は全体を通しての反省、感想を提出する。
Ⅱ 歯科診療所における実習
(実習場所)東京都内・神奈川県内の歯科診療所
(実習方法および内容)
オリエンテーション時に概要説明を行う。
歯科診療所において歯科臨床の概要を知り、歯科衛生士業務を理解し、実践する。
(予習)学習ノートを整理する。
(復習)実習した内容を正しく理解し、把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を記録し、指導者より点検を受ける。学習ノートに実習で得た知識を書き加え整理する
全体を通しての反省・感想を提出する
Ⅲ 全体の行動目標（詳細は実施要項に示す。）
1 歯科衛生士の基本姿勢を理解し、実践できる。
2 診療体系を理解し、実践できる。
3 各科の診療内容を理解する。
4 歯科材料取り扱いを実践できる。
5 感染予防対策が実践できる。
6 他職種連携について理解する。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。		
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%、実習不可能な場合は学内試験に置き換える。		
教科書		参考書	

46	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨床実習Ⅰ－2(歯科診療所)	単位数		8
担当教員		広川 香 ・鯉江 夏美 ・ 宇佐美 麻里	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】
口腔の専門職として、責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践できる能力を養う。コメディカルの一員としての行動を身につける。

【授業計画】
Ⅰ 提携病院における実習
(実習方法および内容)オリエンテーション時に概要説明を行う。
上記施設は総合歯科、特殊診療科、障害者歯科、小児歯科、矯正科、口腔外科等の診療分野に分かれており、各科において実習できるように配当される。また、口腔外科では病室における実習も含み、看護師の患者さんへの対応なども学習する。実施要項に各科の到達目標を示す。
(予習)配布された学習ノートや資料で事前学習を行う。
(復習)実習した内容を正しく理解し、把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を記録し、指導者より点検を受ける。学習ノートに実習で得た知識を書き加え整理する。
(実習内容達成度自己評価)最終日に調査票に記入し、提出する。
各科終了後、レポートを提出する。全実習終了後は全体を通しての反省、感想を提出する。
Ⅱ 歯科診療所における実習
(実習場所)東京都内・神奈川県内の歯科診療所
(実習方法および内容)
オリエンテーション時に概要説明を行う。
歯科診療所において歯科臨床の概要を知り、歯科衛生士業務を理解し、実践する。
(予習)学習ノートを整理する。
(復習)実習した内容を正しく理解し、把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を記録し、指導者より点検を受ける。学習ノートに実習で得た知識を書き加え整理する
全体を通しての反省・感想を提出する
Ⅲ 全体の行動目標 (詳細は実施要項に示す。)
1 歯科衛生士の基本姿勢を理解し、実践できる。
2 診療体系を理解し、実践できる。
3 各科の診療内容を理解する。
4 歯科材料取り扱いを実践できる。
5 感染予防対策が実践できる。
6 他職種連携について理解する。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。		
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%、実習不可能な場合は学内試験に置き換える。		
教科書		参考書	

47	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨地実習Ⅰ(教育施設)	単位数		1
担当教員		広川 香 ・鯉江 夏美 ・宇佐美 麻里	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】
口腔保健の向上を目指して、幼児から生徒に対しての集団歯科保健指導を体験し、地域歯科保健を担う一員としての能力を養う。地域歯科推進に関わる職種、役割を理解する。

【授業計画】
(実習場所)
準備期　　教室等
実習期　　学校法人日本体育大学設置高等学校および幼稚園
　　日本体育大学桜華高等学校・中学校
　　日体幼稚園
(実習方法)
歯科保健指導論Ⅲに続いて、集団歯科保健指導のための準備・実施・評価を行う。
1 対象の把握 実施先ごとの打ち合わせ
2 予行演習
3 教育現場における歯科保健指導の実施
4 指導後の評価、改善
5 まとめ
上記項目は実習の順序・回数を示すものではない。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。		
評価方法	実習先評価80%・実習レポート等20%、実習不可能な場合は学内試験に置き換える。		
教科書		参考書	

48	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨地実習Ⅱ－1(福祉施設)	単位数		1
担当教員		広川 香・鯉江 夏美・ 宇佐美 麻里	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】

臨地実習Ⅱ-1では、公衆歯科衛生の現場、高齢者福祉施設、障害者福祉施設において実習を行う。公衆歯科衛生の現場では、母子保健、成人保健における健康診査や指導を実際に見学し、高齢者福祉施設・障害者福祉施設では入所者、通所者と生活を共にすることにより、その中で、口腔ケアがどのように実施されているのか、歯科衛生士がどのような役割を実際に担っているのかを自分の目で実際に見て、体感してくることが重要である。学内での事前学習では実習施設についての講義を受け、グループワークを行なって施設の概要や高齢者・障害者の特性、高齢者、障害者施設、保健所の役割や特徴を学びながら、各自で実習の目標を設定する。実習後のまとめとして、レポート提出を行う。またグループごとに実習の報告プレゼンテーションを作成し、発表を行う。

【授業計画】

(実習場所)
・社会福祉施設(高齢者福祉施設、障害者福祉施設)
(実習内容)・実習についてのオリエンテーション(学内)
・事前学習(学内)
・施設及び保健所関係者による講義(学内)
・施設及び保健所における実習
・まとめ レポート提出(学内)
・プレゼン資料作成と発表(学内)

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%、実習不可能な場合は学内試験に置き換える。

教科書		参考書	

49	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨地実習Ⅱ－2(福祉施設)	単位数		1
担当教員		広川 香 ・鯉江 夏美 ・ 宇佐美 麻里	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】
高齢者や障害児(者)の口腔機能やQOLの向上に必要な技能の習得するため、対象となる人々の特性を理解し、対応方法を学ぶ。
地域保健事業の内容を学び、対象者に適切な援助ができる基本の能力を身に付ける。

【授業計画】
臨地実習Ⅱ-1と同様に行う。
すなわち、公衆歯科衛生の現場、高齢者福祉施設、障害者福祉施設において実習を行う。公衆歯科衛生の現場では、母子保健、成人保健における健康診査や指導を実際に見学し、高齢者福祉施設・障害者福祉施設では入所者、通所者と生活を共にすることにより、その中で、口腔ケアがどのように実施されているのか、歯科衛生士がどのような役割を実際に担っているのかを自分の目で実際に見て、体感してくることが重要である。
学内での事前学習では実習施設についての講義を受け、施設の概要や高齢者・障害者の特性、高齢者、障害者施設、保健所の役割や特徴を学びながら、各自で実習の目標を設定する。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。		
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%、実習不可能な場合は学内試験に置き換える。		
教科書		参考書	

50	区分	選択必修分野	形式	演習	後期　木曜日
授業科目名		専門基礎総合演習	単位数		2
担当教員		鈴木 幸江・広川 香 ・宇佐美 麻里	履修年次		口腔 2年次

【授業の概要・到達目標】
1年.2年次に学んだ事項を復習し、総括するとともに問題演習などによってそれぞれの科目への理解と応用力を深め、3学年の学修に備える

【授業計画】

			1	9/29	専門基礎科目（人体解剖・機能）
			2	10/6	専門基礎科目（口腔解剖・機能）
			3	10/13	専門基礎科目（薬理・病理）
			4	10/20	専門基礎科目（高齢者）
			5	10/27	専門科目（障がい者）
			6	11/10	専門科目（口腔外科）
			7	11/17	専門科目（歯科放射線）
			8	11/24	専門科目（歯科放射線・臨床検査学）
			9	12/1	専門科目（小児歯科学）
			10	12/8	専門科目（小児歯科学）
			11	12/15	専門科目（歯周病）
			12	1/12	専門科目（保存）
			13	1/19	専門科目（補綴）
			14	1/26	専門科目（矯正）
			15	2/2	後期期末試験
			16	2/9	期末試験解答解説・振り返り

学習上の注意	各科目のノート・参考書を復習しておく		
評価方法	期末試験試験90%、レポート・授業態度10%		
教科書	各科目の参考書	参考書	

51	区分	選択必修分野	形式	演習	後期　木曜日
授業科目名		総合歯科医学演習	単位数		2
担当教員		鯉江 夏美 ・富田 美穂子	履修年次		口腔　3年次

【授業の概要・到達目標】

これまでに学修した内容を総括すると同時に、演習を交えることにより国家試験対策に繋げることを目的とする。

【授業計画】

			1	9/29	病理学を総括
			2	10/6	栄養学を総括
			3	10/13	歯科予防処置論を総括
			4	10/20	保存学を総括
			5	10/27	補綴学を総括
			6	11/10	口腔外科学を総括
			7	11/17	小児歯科学を総括
			8	11/24	矯正歯科学を総括
			9	12/1	後期期末試験
			10	12/8	歯科診療補助論を総括
			11	12/15	歯科保健指導論を総括
			12	1/12	人体構造機能学を総括
			13	1/19	口腔構造機能学を総括
			14	1/26	総復習①
			15	2/2	総復習②
			16	2/9	総まとめ

学習上の注意	これまでに学んだ事項を復習しておく		
評価方法	総合期末試験、小テスト、授業態度		
教科書		参考書	

52	区分	選択必修分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		医療保険	単位数		2
担当教員		荒川　浩久	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】

日本は社会保険方式の医療保険を国民皆保険として運用している。歯科衛生士の90％が就業している歯科診療所のほとんどが保険医療機関として医療保険を取り扱っている。最近では、歯科診療報酬体系に歯科衛生業務が多く組み込まれるようになった。そこで、医療保険のルールを理解し、日々の歯科医業に円滑に取り組めるように、歯科衛生業務の歯科診療報酬における取扱いについて学修し、かつ医療保険の分野である社会保障の基本的な事項についても学修することを目的とする。

【授業計画】

1	4/7	歯科衛生士と歯科診療報酬　A2～13			
2	4/7	わが国の地域保健　B69-76			
3	4/14	歯科点数表総論1　A14～33			
4	4/14	歯科点数表総論2			
5	4/21	歯科点数表の特徴1　A34～57			
6	4/21	歯科点数表の特徴2			
7	4/28	初診料と再診料　A58～63			
8	4/28	医療保険と歯科点数総論のまとめ			
9	6/30	各論（歯科衛生業務と歯科点数）1　A64～131			
10	6/30	各論（歯科衛生業務と歯科点数）2			
11	7/7	各論（歯科衛生業務と歯科点数）3　A81～219			
12	7/7	事例（歯科衛生業務と事例）			
13	7/14	人口動態・静態統計　B13-21			
14	7/14	疫学研究　B39－46			
15	7/21	前期期末試験　PM			
16	7/28	試験の解説と振り返り　PM			

学習上の注意	講義内容のエッセンスを資料として配布するので、講義時にそれに追記し、課題を整理して理解する。講義終了後は、できるだけ早いタイミングで復習し、自分のものにしておくこと。医療保険の範囲である社会保険だけでなく、同じ社旗保障に含まれる公衆衛生についても理解すること。		
評価方法	期末試験（80％）、レポート（10％）、授業への取組み（10％）で総合評価する。		
教科書	歯科衛生士のための歯科診療報酬入門2020-2021(A)、医療スタッフのための衛生学エッセンス2022/2023（B）	参考書	

53	区分	選択必修分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		社会福祉論	単位数		2
担当教員		大滝　周	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】

社会福祉とは、人間の権利として誰もが有する自己実現(well−being)を社会的に支援することである。現代は、急速に進む少子・高齢化に伴い、さまざまな問題を有している。 将来、歯科衛生士として、病院や地域で活動する際、それらの問題に適切に対処していくためには、医療分野での知識だけではなく福祉も含めた統合視点が求められている。

授業では、社会福祉の歴史、理念、目的および現代社会における社会福祉に関する制度、現状について学習する。

【授業計画】

1	4/6(水)	SGDsとは			
2	4/6(水)	社会福祉／社会保障制度とは			
3	4/6(水)	社会福祉／社会保障制度を考える②			
4	4/6(水)	SGDsを考える②			
5	5/12	社会保険:医療保険とは			
6	5/19	社会保険:年金保険とは			
7	5/26	社会保険:雇用保険、労働者災害補償保険とは			
8	5/26	社会保険:介護保険とは			
9	5/26	公的扶助:生活保護とは			
10	6/9	社会福祉の基本とは			
11	6/9	社会福祉:子ども福祉とは			
12	6/9	社会福祉:子ども福祉を考える			
13	6/16	社会福祉:障害者福祉とは			
14	6/23	社会福祉:高齢者福祉とは			
15	7/21	前期期末試験			
16	7/28	まとめ			

学習上の注意	本授業については、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを含めた形式で実施する。 主体的に授業に臨みましょう!		
評価方法	評価は、①前期期末試験(本試験)(60%)、②グループワーク・プレゼンテーション・指示された課題および授業態度(40%)の合計点とする。 再試験の再試験あるいは追試験の②の評価は、本試験で使用したものを採用する。		
教科書・参考書	歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険	参考書	

54	区分	選択必修分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		スポーツ歯学	単位数		2
担当教員		元開　富士雄	履修年次		口腔 3年次

【授業の概要・到達目標】
スポーツ医学の中での歯科の役割を理解し顎口腔の運動機能と全身運動との関わりを学習する。アーティストの栄養摂取効果を高めるための口腔衛生指導と栄養指導。スポーツでの外傷の予防と処置、外傷予防のためのマウスガードの作成と調整、パフォーマンス効果を向上させるための口腔機能と処置について指導できるようになる。

【授業計画】

			1	9/29	ポーツ歯科医学の意義と概念
			2	10/6	アスリートの歯科の現状と歯科の役割
			3	10/13	アスリートの口腔管理
			4	10/20	口腔の形態と機能による栄養指導
			5	10/27	スポーツ飲料と口腔疾患
			6	11/10	全身運動と顎運動との関係
			7	11/17	顎運動の評価
			8	11/24	スポーツ外傷と対応
			9	12/1	スポーツ外傷による顎機能のリハビリ
			10	12/8	後期期末試験
			11	12/15	スポーツ外傷による顎機能のリハビリ
			12	1/12	マウスガードの目的と種類
			13	1/19	マウスガードの選択と設計
			14	1/26	マウスガードの作成と調整
			15	2/2	ドーピングなどスポーツ医学への理解
			16	2/9	スポーツ歯科まとめ

学習上の注意	スライドとプリントによる講義、一部マウスガードとスプリント実習		
評価方法	試験及びレポート、小試験による評価		
教科書	スポーツ歯学ハンドブック(医学情報誌)	参考書	